

街の中にある過去

ただ何としても、フラワー通りに面した旧市街地は現代的な味気ない街となっている。説明された学芸員さんの現地に残せなかった忸怩たる思いが伝わる。急激な成長の時期に、様々な事情で取り壊さざるを得なかったこともある。

一方で浦安は「よし」の海辺は、埋め立てられ急速に市街地化される。郷土博物館の学芸員の方に街歩きの初めに伺ったところ、漁師も農家も今は廃業してなくなったとのこと。郷土博物館の船大工も全員物故してしまい、船を直すこともできないという。



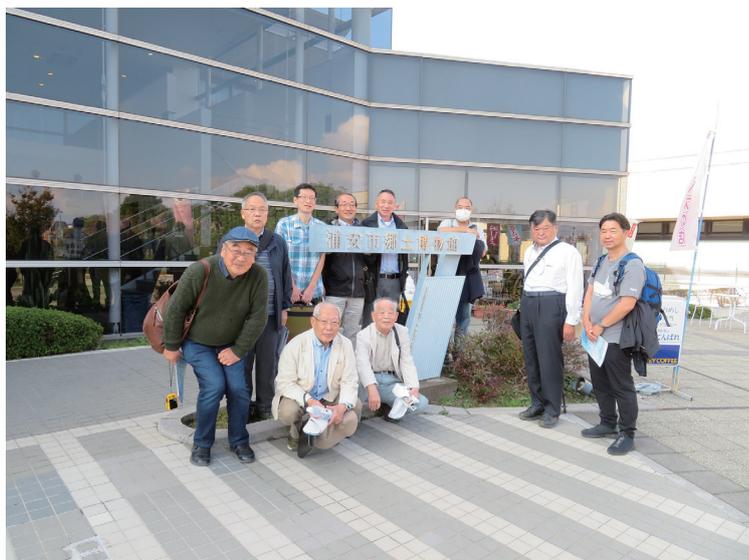
◀ 旧医院のスケッチ



▲ 郷土博物館の学芸員より海岸の埋め立ての説明をうかがう

旧市街地の旧宇田川家は台風や高潮や浦安の中でも土地が幾分高いようで災害の多い浦安にありながら生きのびてきた。一方の新市街地はディズニーランド、舞浜の市街地が急速に開発されたが、3・11の東日本地震で液状化の災害で浦安市の人はいろいろな辛酸をなめてきたことは記憶に新しい。

新旧の都市の環境の課題は地元のまちづくりや郷土に関心がある人が主体になって、現状の空間を生かしながら進めたい。景観まちづくり委員会のメンバーはその一助にもなり、同時に一人の建築専門家として、今後も浦安の新旧の町の深堀をしたい。



▲ 浦安市郷土博物館の前で10人の参加者と